

臨地実習における学生の学びに影響を及ぼす要因 －人的・物的環境に焦点をあてて－

滝島 紀子¹⁾ 大藪 菜穂子¹⁾

要 旨

(目的) 学生にとってより学びの多い実習環境を整えるうえでの手がかりを得る目的で、人的環境・物的環境に焦点をあて、臨地実習における学生の学びに影響を及ぼす要因を明らかにする。

(方法) 新卒看護師 200 名を対象に、調査紙による調査を実施し、得られた内容をコード化し、コードよりカテゴリーを抽出した。

(結果) 学生の学びに特に影響を及ぼすのは人的環境であり、要因としては「指導者との関係性に関する要因」「雰囲気に関する要因」「指導に関する要因」「気遣いに関する要因」が抽出された。物的環境として、学生控え室に関しては「精神面に関する要因」「学習面に関する要因」「学生とのかかわりに関する要因」「教員とのかかわりに関する要因」が、使用物品に関しては「物品が学校と異なる場合の要因」「物品が学校と同じ場合の要因」「物品が学生専用の場合の要因」「物品が病棟と共用の場合の要因」「物品が不足している場合の要因」が抽出された。

キーワード：臨地実習 学生の学び 実習環境

I はじめに

看護基礎教育における実習は、看護実践能力を育成するうえで非常に重要な科目である。

この科目における学生の学びに影響を及ぼす要因としては、各々の看護基礎教育機関が考える臨地実習プログラムはもちろんであるが、「今回の実習ではたくさんの学びがあった」「今回の実習はよかった」「今回の実習は楽しかった」などという学生の声がある一方、「今回の実習ではあまり学べなかった」「今回の実習は大変だった」などという学生の声があることから推察すると、実習プログラム以外にも「学生の学び」に影響を及ぼす要因があるものと思われる。

これを明らかにする目的で、過去 5 年間の臨地実習の学びに関する文献をみても、各領域の実習においてどのような学びがあったかを実習後に学生を対象とした調査によって明らかにした研究^{1) 2) 3) 4) 5)}、各領域の実習においてどのような学びがあったかを教員が実習終了後の記録の分析によって明ら

かにした研究^{6) 7) 8)}、実習における学びを実習についての学びに関する文献の分析を行って明らかにした研究⁹⁾、実習における学びを教員がカンファレンス内容の分析を行って明らかにした研究^{10) 11)} など、臨地実習における実習内容についての学生の学びに関する研究は多々あるが、臨地実習における学生の学びに影響を及ぼす要因に関する研究は見あたらなかった。

そこで、「臨地実習の実際」から臨地実習プログラム以外の学生の学びに影響を及ぼすと思われる要因を考えてみると、臨地実習は、教員・指導者・病棟スタッフの学生へのかかわりなくして成立しないことから臨地実習におけるこれらの人々の影響としての人的環境、また、学生が 1 日の実習開始前や昼休憩、実習終了後に使用可能な学生控え室や学生が実習において看護援助を行うさいに使用する病棟の物品という物的環境があげられた。

以上のことより、今回は、学生にとってより学びの多い実習環境を整えるうえでの手がかりを得る目的で、人的環境・物的環境に焦点をあて、臨地実習

1) 川崎市立看護短期大学

における学生の学びに影響を及ぼす要因を明らかにしたのでここに報告する。

II 研究目的

学生にとってより学びの多い実習環境を整えるうえでの手がかりを得る目的で、人的環境・物的環境に焦点をあて、臨地実習における学生の学びに影響を及ぼす要因を明らかにする。

III 用語の定義

「学び」とは、看護実践を行う上で必要となる基礎的な能力を身につけること

「人的環境」とは、臨地実習にかかわる人々（教員・指導者をはじめとする病棟スタッフ）

「物的環境」とは、臨地実習に関係する物理的なもの（病棟の物品、学生控え室）

IV 研究方法

1 研究デザイン

質的記述的研究

2 対象

かつて研究協力依頼を行った全国の300床以上の総合病院71施設のなかから無作為抽出した50施設の新卒看護師200名（就職後、約半年を経過した看護大学卒業新卒看護師100名・看護専門学校卒業新卒看護師100名）

3 期間

平成30年1月24日（水）～平成30年2月9日（金）

4 方法

自作の質問紙（無記名自記式）による調査。調査紙は、病院の看護部宛に郵送し、看護部に研究対象として該当する看護師への配布を依頼した。回収は、看護部から依頼された看護師が調査紙に添付した封筒にて自分の意思で回答・返送する方法を用いた。尚、調査の依頼にさいしては、研究の主旨と個人情報保護が保護されることを書面で説明した。

5 内容

下記2)3)は、学生時代の臨地実習を想起しての回答を求めた。

1) 最終的な看護基礎教育機関（選択：看護大学、看護専門学校）

（教育機関による影響要因の違いの有無を明らかにする目的で訊いた）

2) 臨地実習において学生の学びに影響を及ぼす人

的環境

(1) 教員・指導者・病棟スタッフのかかわりが学びに及ぼす程度とその内容

程度は「とても影響する」「やや影響する」「影響しない」の3択、「とても影響する」「やや影響する」を選択した場合は、以下の2つの視点についての自由記述とした。

① 学びが促進される教員・指導者・病棟スタッフのかかわり（言語・非言語）

② 学びが阻害される教員・指導者・病棟スタッフのかかわり（言語・非言語）

3) 臨地実習において学生の学びに影響を及ぼす物的環境

(1) 学生控え室が学びに及ぼす影響の程度とその内容

(2) 看護援助で使用する病棟の物品が学びに及ぼす影響の程度とその内容

程度は「とても影響する」「やや影響する」「影響しない」の3択、「とても影響する」「やや影響する」を選択した場合は、その内容を自由記述とした。

6 分析方法

1) は単純集計、2) 3) は記述内容を1単位とし、その意味が損なわれることのないよう留意してコード化した。その後、コード化の類似性・相違性に着目して比較検討を行い、カテゴリーを抽出した。この一連の過程においては、研究者が繰り返し検討を行い、分析結果の妥当性に努めた。

7 倫理的配慮

対象には、データを研究目的以外には使用しないこと、調査紙は無記名であるため個人は特定されないこと、調査紙に添付した封筒での調査紙の返送は自由意思に基づくものであり、調査紙の返送によって研究への同意とみなすことを文書で説明した。尚、本研究は、川崎市立看護短期大学研究倫理委員会の承認を得て実施した。（承認番号 第R 82 - 1）

V 結果

1 対象の概要

調査紙の回収数は67、回収率は33.5%であった。内訳は、看護大学卒業新卒看護師（以下、大学卒業看護師とする）の回収数29（回収率29%）、看護専門学校卒業新卒看護師（以下、専門学校卒業看護師とする）の回収数38（回収率38%）であった。

2 臨地実習において学生の学びに影響を及ぼす人的環境

1) 教員・指導者・病棟スタッフのかかわりが学びに及ぼす影響の程度とその内容

教員・指導者・病棟スタッフのかかわりが学びに及ぼす影響の程度は、大学卒業看護師「とても影響する」26人(90%)、「やや影響する」3人(10%)、「影響しない」0人(0%)、専門学校卒業看護師「とても影響する」32人(84%)、「やや影響する」6人(16%)、「影響しない」0人(0%)であった。

影響の内容を、「学びが促進される教員・指導者・病棟スタッフのかかわり」という視点でみる(表1)と、大学卒業看護師においても専門学校卒業看護師においても「指導者との関係性に関する要因」「雰囲気に関する要因」「指導に関する要因」「気遣いに関する要因」「その他の要因」という5つのカテゴリーが抽出された。

カテゴリーの内容をみると、「指導者との関係性に関する要因」では「話を聞いてくれる」「声をかけてくれる」など、「雰囲気に関する要因」では「話かけやすい雰囲気」「声をかけやすい雰囲気」など、「指導に関する要因」では「アドバイスをしてくれる」「考えるさいのヒントをくれる」「一緒に考えてくれる」「ほめてくれる」「根拠を問うかかわり」など、「気遣いに関する要因」では「健康面で気遣ってくれる」「常に気にかけてくれる」などであった。

また、「学びが阻害される教員・指導者・病棟スタッフのかかわり」という視点でみる(表2)と、大学卒業看護師においても専門学校卒業看護師においても「指導者との関係性に関する要因」「雰囲気に関する要因」「指導に関する要因」「気遣いに関する要因」という4つのカテゴリーが抽出された。

カテゴリーの内容をみると、「指導者との関係性に関する要因」では「否定的な態度」「威圧的な態度」など、「雰囲気に関する要因」では「声をかけづらい」「話かけにくい雰囲気」など、「指導に関する要因」では「何を考えたらいいいかわからない指導」「指導者と教員の指導方針が一致していない指導」など、「気遣いに関する要因」では「実施する援助を伝えてあっても、すでに終わっている」「行動計画に非協力的」などであった。

3 臨地実習において学生の学びに影響を及ぼす物的環境

1) 学生控え室が学びに及ぼす影響の程度とその内容

学生控え室が学びに及ぼす影響の程度は、大学卒業看護師「とても影響する」13人(45%)、「やや影響する」14人(48%)、「影響しない」2人(7%)、専門学校卒業看護師「とても影響する」20人(53%)、「やや影響する」14人(37%)、「影響しない」4人(10%)であった。

影響の内容をみる(表3)と、大学卒業看護師においても専門学校卒業看護師においても「精神面に関する要因」「学習面に関する要因」「学生とのかかわりに関する要因」「教員とのかかわりに関する要因」という4つのカテゴリーが抽出された。

カテゴリーの内容をみると、「精神面に関する要因」では「息抜きができる」「精神的に落ち着く」など、「学習面に関する要因」では「自己学習ができる」「学生とのかかわりに関する要因」では「学生同士で相談ができる」「学生同士で情報共有ができる」など、「教員とのかかわりに関する要因」では「教員とじっくり話せる」「教員から落ち着いて指導を受けられる」などであった。

2) 看護援助で使用する病棟の物品が学びに及ぼす影響の程度とその内容

看護援助で使用する病棟の物品が学びに及ぼす影響の程度は、大学卒業看護師「とても影響する」7人(24%)、「やや影響する」14人(48%)、「影響しない」8人(28%)、専門学校卒業看護師「とても影響する」13人(34%)、「やや影響する」20人(53%)、「影響しない」5人(13%)であった。

影響の内容をみる(表4)と、大学卒業看護師においても専門学校卒業看護師においても「物品が学校と異なる場合の要因」「物品が学校と同じ場合の要因」「物品が学生専用の場合の要因」「物品が病棟と共用の場合の要因」「物品が不足している場合の要因」という5つのカテゴリーが抽出された。

カテゴリーの内容をみると、「物品が学校と異なる場合の要因」では、メリットとして「ある物品で適切なケアを工夫するため応用力がつく」「実習場所の物品で援助を行う場合、それも学びになる」、デメリットとして「学んだことをスムーズにできないことがある」「学内演習で用いた物品と違うと焦る」など、「物品が学校と同じ場合の要因」では「ケアがス

ムーズに行える><適切な援助が行える>など、「物品が学生専用の場合の要因」では<病棟スタッフのことを気にせず使用できる><看護師に気を遣わずに自分の計画通りに行える>など、「物品が病棟と共用の場合の要因」では<学生が使用してよい物品がわからないと戸惑う><病棟から借りなければならないときは気を遣う>など、「物品が不足している場合の要因」では<十分に学びが深められない><自分が考えた援助を行うことができない>などであった。

VI 考察

今回明らかになった人的環境・物的環境が学びに及ぼす影響の程度についての結果より、臨地実習における学生の学びに特に影響を及ぼす要因は人的環境であること、物的要因も影響を及ぼすが人的影響ほどではないことが明らかになった。また、コードの内容や抽出されたカテゴリーから大学卒業看護師と専門学校卒業看護師という教育機関による影響の違いはほとんどないことが明らかになった。

次では、人的・物的環境が学生の学びに及ぼす影響について考察していく。

1 臨地実習において学生の学びに影響を及ぼす人的環境

指導者との関係性に関するすべての促進要因、雰囲気に関するすべての促進要因、気遣いに関するすべての促進要因、そして、指導に関する促進要因の「ほめてくれる」「励ましてくれる」は、言語においても、非言語においても学生へのポジティブな関心が感じられる内容が挙げられていた。このようなことについては、「指導者は温かさや共感をもって接することによって学生が最大限能力を発揮できるようにし、学生の不適応感を和らげ、また、成功した体験を強化する。良き指導者は、批判や権威や成績づけをもって臨むよりも、むしろ支持、肯定で臨む」¹²⁾といわれていることから、このようなかかわりは、学生が指導者の自分たちへの肯定的で支持的な姿勢を感じることで、指導者とのかかわりに煩うことなく実習ができるだけでなく、指導者の自分たちへの支持によって、実習への意欲が高まることで学びが促進されるのではないかと考える。一方、指導者との関係性におけるすべての阻害要因、雰囲気に関するすべての阻害要因には、言語においても、非言語においても学生への関心が感じられないネガティブな

内容が挙げられていた。このようなことについては、「教員も学生も、互いによい関係を保つ責任を負っているが臨床教員は学生を信頼し、尊重していることを、実際に示していかなければならない。学生を信頼し、尊重し合える関係を築くことは、人間の尊厳や自律を重んじることに對する教員の倫理的価値に起因する」¹³⁾といわれていることから、このようなかかわりは、指導者側の倫理的問題、すなわち、教育倫理上の問題を含んだかかわりといえる。したがって、このようなかかわりによって、学生には指導者との関係に煩いが生じ、この煩いによって実習を進めていくうえで学生が必要とする助言や指導を得にくくなることで、学びが阻害されるのではないかと考える。

指導に関する促進要因には、「アドバイスをくれる」「ヒントをくれる」「指導してくれる」「問うかかわり」など学生の学習を支援する内容が挙げられていた。「アドバイスやヒント、指導」については、「初心学生に必要な教師－学生関係は、教師が監督者ではなく、いきとどいた助言者となるような“指導者”関係である」¹⁴⁾といわれていることから、学生が実習を進めていく上での有効で効果的な指導者のかかわりによって学びが促進されるのではないかと考える。指導においては、「一緒に考えてくれる」「一緒に振り返ってくれる」など「一緒に」という内容も挙げられていた。これについては、「技術の獲得というのは、失敗したり、それをどうやって修正すればいいかを学んだり、同じ失敗を繰り返さないためにはどうすればよいかを考えたりする複雑なプロセスである」¹⁵⁾「学習方法について反省したり、改善に向けて工夫をするという意味での『振り返り』の機会を設けることが、やる気の増進につながる」¹⁶⁾といわれていることから、学生は指導者と一緒に考え、または一緒に振り返ることで、自分では気づかなかったことにも気づくことができ、一人で考え、振り返るよりも気づきが多くなることで学びが促進されるのではないかと考える。また、「問うかかわり」については「学生が自分で努力して考えていけるように、教師は、質問過程での案内者にならなければならない」¹⁷⁾といわれており、質問の目的については「学生にフィードバックを与え、クリティカル・シンキングを向上させることである」¹⁸⁾といわれている。このことから、根拠や考えを問うかかわりは、「明確化を促す質問」¹⁹⁾であり、この質

問は「学生に表面的な答を掘り下げさせるものである」²⁰⁾といわれていることから明らかなように、学生の理解状況にあった問いは、学生の思考を吟味し、また多角的な側面からの検討を促す。その結果、学生の学びが深まり、視点が広がることで学びが促進されるのではないかと考える。一方、指導に関する阻害要因は、いずれも学生の学習を支援するかかわりとはなっていない。学習環境については「教師がつくり出す学習環境は、学生がいかにかまこの目標を達成できるかに大きな影響を与える」²¹⁾といわれていることから明らかなように、指導者がそのように学生にかかわるかによって学生の学びの実態は異なる。したがって、学生の学習を支援するかかわりのないことは、学生が必要とする助言や指導を受けられないということになるため、学びが阻害されるのではないかと考える。また、気遣いに対する阻害要因については、「クライアントにケアを行うことは、学生にとって貴重な学習体験である。学生が知識と処理能力と技能を応用し、初心のヘルスケア専門家として必要なレベルの能力を徐々に身につけることができるのは、実際にクライアントとの接触を通してのみ可能である」²²⁾「教師は、学生が自由に自分の考えや能力を試すことができるようにしなければならない」²³⁾といわれていることから、このようなかかわりは、学生にとって実際に体験から学ぶ機会がなくなるだけでなく、学習意欲が削がれてしまうことで学びが阻害されるのではないかと考える。その他の要因として、「自分の理想の看護師像を描くことに繋がった」「私もこんな看護師になりたいと強く思えた」という看護師のモデル像があった。これについては、「学生は看護スタッフの行動を観察してそれをまねることがよくある。そのため、スタッフは学生や新人の看護師にとってよいモデルでなければならない」²⁴⁾といわれているように、自分にとっての看護師モデルに出会うことで自分の目指す看護師像がイメージでき、このイメージに向かって学んでいこうとする思いが学習意欲を高めることで学びが促進されるのではないかと考える。

2 臨地実習において学生の学びに影響を及ぼす物的環境

1) 学生控え室が学びに及ぼす影響

精神面に関する要因については、実習場所の選定基準として「教員や学生が利用できるカンファレン

スルームやロッカールーム、私物をおいておくスペース、食堂や休憩をとるスペース、図書館や参考資料等の確認が必要である」²⁵⁾があげられていることから、学生が休憩をとるスペースは実習においては不可欠であるといえる。学生は、このようなスペースで病棟スタッフや患者とのかかわりにおける精神的な緊張状態から解き放され、英気を養うことができることで学びが促進されるのではないかと考える。また、学生とのかかわりに関する要因については、「学習者がお互いにシンキングアラウンド法を使ってメタ認知のモデルを見せあうのも非常にいいやり方である。学習者にとっては、自分とはかなりレベルのかけ離れた教師のモデルを見るよりも、自分自身と近いレベルにある学習者のモデルの方がより参考になることも多い」²⁶⁾といわれていることから、学生同士が共に過ごす時間を持ち、そのなかで知的・心的な刺激を与え合うことで、実習を乗りきるための一体感が生じ、この一体感が学生にとっての学ぶ力となることで学びが促進されるのではないかと考える。また、学習面に関する要因や教員とのかかわりに関する要因については、上記の実習場所の選定基準で述べたように、学生は休憩をとるスペースで、病棟スタッフや患者とのかかわりにおける精神的な緊張状態から解き放され、精神的に落ち着いた状態で自己学習を行ったり、教員から指導を受けることができることで、学びが促進されるのではないかと考える。

2) 看護援助で使用する病棟物品が学びに及ぼす影響

病棟で使用する物品においては、物品が学校と異なる場合の要因のメリットをあげていた。これについては「看護実践教育を通して、学生は教室で学んだ知識を実際の場面に適用していく。看護実践教育では、理論を実践に応用するのである。学生は臨床で起こっていることを観察したり、そこに参加したりすることで、教室や自己学習で得た知識をさらに広げていく。臨床での実践学習では、限られた資源を効果的に、かつ適切に活用するために、教室では学べない知識の獲得に力を注ぐ必要がある」²⁷⁾といわれていることから、物品が学校と異なることで、原理を応用する、物品の代用品を考えるなどの知的活動を通して応用することの大切さ、工夫の大切さに気づくことで学びが促進されるのではないかと考える。一方、物品が学校と異なる場合の要因のデメ

リットや物品が学校と同じ場合の要因の内容は、使い慣れている物品を使用して行う場合は、援助を行うさいに戸惑うことがないため、スムーズに援助ができることで学びが促進されるのではないかと考える。また、物品が病棟と共用の場合は、学生専用の場合と異なり、病棟看護師の仕事への気遣いから自分たちの都合だけで使用していいのかという思いによる援助に対する躊躇が、学びを阻害するのではないかと考える。

Ⅶ 研究の限界と今後の課題

本研究の調査紙の回収数は67、回収率は33.5%であるため、一般化には限界がある。今後は、さらに調査対象数を増やして結果の妥当性を高めていく必要がある。

Ⅶ 結論

臨地実習における学生の学びに影響を及ぼす人的環境・物的環境要因としては、以下のことが明らかになった。

- 1 学生の学びに特に影響を及ぼす要因は人的環境である。また、看護大学と看護専門学校という

教育機関による人的・物的環境の学びの影響の違いはほとんどない。

- 2 教員・指導者・病棟スタッフのかかわりが学びに及ぼす影響要因は、学びを促進する要因においても阻害する要因においても「指導者との関係性に関する要因」「雰囲気に関する要因」「指導に関する要因」「気遣いに関する要因」であった。
- 3 学生控え室が学びに及ぼす影響要因は、「精神面に関する要因」「学習面に関する要因」「学生とのかかわりに関する要因」「教員とのかかわりに関する要因」であった。
- 4 看護援助で使用する病棟の物品が学びに及ぼす影響要因は、「物品が学校と異なる場合の要因」「物品が学校と同じ場合の要因」「物品が学生専用の場合の要因」「物品が病棟と共用の場合の要因」「物品が不足している場合の要因」であった。

著者資格：TNは研究の着想から最終原稿作成に至る研究プロセス全体に貢献した。ONは表作成に貢献した。

引用文献

- 1) 田村裕子ほか. 精神看護学実習における看護学生の体験と学び, 三重看護学会誌, Vol. 18, 2016, P23-30.
- 2) 坂本めぐみほか. 看護学生の統合実習における看護管理実習の学び, 国立病院機構熊本医療センター医学雑誌, Vol. 14, no. 1, 2015, P111 - 116.
- 3) 川村晃右ほか. 精神科スーパー救急病棟における精神看護学実習を通じた学生の学び, 明治国際医療大学, Vol. 12, 2015, P27 - 31.
- 4) 信里ユリエほか. 老年看護学実習における外来看護の学び, 国立療養所看護研究学会誌, Vol. 10, 2015, P44 - 47.
- 5) 掛川静代ほか. 看護大学生の基礎看護学実習Ⅱでの学び, 兵庫大学論文集, Vol. 20, 2015, P53 - 58.
- 6) 塩見和子ほか. 成人看護学慢性期実習における学生の学び 実習記録の分析から, 岡山県看護教育研究会誌, Vol. 40, no. 1, 2016, P15 - 22.
- 7) 拓野浩子ほか. 看護学生の緩和ケア病棟見学における学び 見学後の実習記録の分析から, インターナショナルナーシングケアリサーチ, Vol. 14, no. 2, 2015, P125 - 133.
- 8) 上田稚代子ほか. 看護学生の緩和ケア病棟における実習での学び 死生観・看護観のレポートからの分析, 関西医療大学紀要, Vol. 6, 2012, P67 - 72.
- 9) 藤代知美ほか. 看護学教育における早期体験実習での学習内容に関する文献レビュー, 四国大学紀要, Vol. 46, 2016, P183 - 189.
- 10) 後藤文字子ほか. 臨地実習におけるカンファレンスの学びの実態, 看護実践の科学, Vol. 41, no. 11, 2016, P68 - 73.
- 11) 棟近由利子ほか. 成人看護学実習終末期における死生観カンファレンスからの学生の学び, 国立療養所看

護研究学会誌, Vol. 11, 2016, P287 - 290.

- 12) 中西睦子訳. 看護学教育のストラテジー, 医学書院, 1993, P165.
- 13) 勝原裕美子監訳. 臨地実習のストラテジー, 医学書院, 2002, P96.
- 14) 前掲 12) P165.
- 15) 前掲 13) P7.
- 16) 藤田哲也編著. 教育心理学, ミネルヴァ書房, 2007, P54.
- 17) 前掲 12) P69.
- 18) 前掲 13) P80.
- 19) 前掲 12) P69.
- 20) 前掲 12) P70.
- 21) 前掲 12) P164.
- 22) 前掲 12) P164.
- 23) 前掲 12) P164.
- 24) 前掲 13) P33.
- 25) 前掲 13) P34.
- 26) 前掲 16) P107.
- 27) 前掲 13) P17.

表1 学びが促進される教員・指導者・病棟スタッフのかかわり

	看護大学 (N = 29)	看護専門学校 (N = 38)
カテゴリー	コード	コード
指導者との関係性に関する要因	<ul style="list-style-type: none"> ・話を聞いてくれる (5) ・声をかけてくれる (3) ・笑顔で対応してくれる (2) ・目を見て話してくれる (1) ・威圧的でない話し方 (1) ・感情的でない話し方 (1) ・挨拶してくれる (1) ・挨拶を返してくれる (1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・声をかけてくれる (6) ・優しい口調で話してくれる (3) ・嫌な顔をせず、話を聞いてくれる (2) ・威圧的でない話し方 (1) ・笑顔で話してくれる (1) ・笑顔で挨拶してくれる (1) ・挨拶を返してくれる (1) ・病棟スタッフが学生の挨拶を仕事を止めて訊いてくれる (1) ・顔を見てうなずきながら話を聞いてくれる (1) ・学生を名前と呼んでくれる (1)
雰囲気に関する要因	<ul style="list-style-type: none"> ・話しかけやすい雰囲気 (3) ・相談しやすい雰囲気 (1) ・学生を温かく迎え入れる病棟の雰囲気 (1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・声をかけやすい雰囲気 (1) ・質問しやすい雰囲気 (1) ・学生を受け入れる感じのある病棟体制 (1)
指導に関する要因	<ul style="list-style-type: none"> ・アドバイスをしてくれる (9) ・考えるさいのヒントをくれる (4) ・考えるためのポイントを教えてくれる (2) ・記録にコメントを書いてくれる (1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・丁寧にアドバイスをしてくれる (3) ・考えるさいのヒントをくれる (1) ・考えるさいのアドバイスをしてくれる (1) ・適時、アドバイスをしてくれる (1) ・指摘でなくアドバイスをしてくれる (1) ・わかりやすいアドバイスをしてくれる (1) ・観察の視点が広がるコメントをしてくれる (1) ・気づくためのアドバイスをしてくれる (1) ・記録にコメントを書いてくれる (1)
	<ul style="list-style-type: none"> ・プラスの表現で指導してくれる (1) ・根拠を指導してくれる (1) ・丁寧に教えてくれる (1) ・失敗したことを一緒に振り返ってくれる (1) ・悩んだときに指導や助言によって導いてくれる (1) ・質問に対して一緒に考えてくれる (1) ・実施後、良い点・悪い点を明確にして評価してくれる (1) ・できている点、できていない点を指導してくれる (1) ・改善点や修正点を穏やかに指導してくれる (1) ・改善点を教えてくれる (1) ・質問に対する答えに指導者の意見を言ってくれる (1) ・どのような見学ができるかを事前に教えてくれる (1) ・難しい疾患についての資料を紹介してくれる (1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・一緒に考えてくれる (5) ・丁寧に指導してくれる (3) ・フォローしてくれる (3) ・学生の考えを聞いてから指導してくれる (2) ・教員と指導者が同じ方向性で指導してくれる (2) ・具体的に指導してくれる (1) ・看護師の看護観を指導内容に含んで指導してくれる (1) ・学生の質問に対しては親身に考えてくれる (1) ・考えることを促してくれる (1) ・看護の方向性を一緒に考えてくれる (1) ・学生の考えを否定せず、受け止めて指導してくれる (1) ・一緒に振り返ってくれる (1) ・病棟スタッフ全員が援助をみってくれる (1) ・指導者の患者へのかかわり方をみせてくれる (1) ・資料を紹介してくれる (1)
	<ul style="list-style-type: none"> ・ほめてくれる (5) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ほめてくれる (9) ・励ましてくれる (2)
	<ul style="list-style-type: none"> ・考えてきた援助ができるように調整してくれる (2) ・見学のさいは、注意点などを事前に説明してくれる (1) ・「処置あるけど、見ますか？」などと声をかけてくれる (1) ・根拠を問うかかわり (1) ・看護技術に対する知識を問うかかわり (1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・見学したいこと、実施したいことができるようにしてくれる (1) ・学生が考えた援助に協力してくれる (1) ・積極的にケアに参加させてくれる (1) ・なかなか見ることのできない処置などを見学させてくれる (1) ・根拠を問うかかわり (1) ・考えを問うかかわり (1) ・具体的な質問をしてくれる (1) ・学生の能力にあった課題を提示してくれる (1)
気遣いに関する要因	<ul style="list-style-type: none"> ・健康面で気遣ってくれる (2) ・学習面で気遣ってくれる (1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・常に気にかけてくれる (1) ・指導者ではないスタッフも気にかけてくれる (1)
その他の要因	<ul style="list-style-type: none"> ・病棟スタッフの患者さんへのかかわり方、接し方をみて学ぶことがたくさんあり、自分の理想の看護師像を描くことに繋がった (1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフが実際に患者さんへかかわる姿をみて、「私もこんな看護師になりたい！」と強く思えた (1) ・指導者以外の看護師から指導を受けると、違う視点からの助言が得られ学びが多い (1)

表2 学びが阻害される教員・指導者・病棟スタッフのかかわり

カテゴリー	看護大学 (N = 29) コード	看護専門学校 (N = 38) コード
指導者との関係性に関する要因	<ul style="list-style-type: none"> ・否定的な態度 (5) ・挨拶を返さない (4) ・冷たい態度 (3) ・怖い顔 (2) ・理不尽な注意 (1) ・邪険な対応 (1) ・威圧的な態度 (1) ・イライラしている態度 (1) ・笑顔がない (1) ・話しかけてくれない (1) ・話しかけても相手にしてくれない (1) ・立ち止まって話を聞いてくれない (1) ・作業をしながら報告を聞いている (1) ・話しかけても素っ気ない返答をする (1) ・質問しても返答がない (1) ・話しかけたときの無視や嫌そうな態度 (1) ・厳しい言葉 (1) ・怒り口調 (1) ・「看護師に向かないんじゃない」など実習に関係ない指摘 (1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・威圧的な態度 (5) ・否定的な態度 (5) ・冷たい態度 (4) ・雰囲気が怖い (3) ・萎縮させる態度 (3) ・話しかけても無視をする (3) ・気分によって態度が変わる (2) ・挨拶をしてくれない (2) ・挨拶を返さない (2) ・特定の個人をターゲットにし、否定的なかかわりをする (2) ・感情の起伏があり、態度にでている (1) ・言い方がきつい (1) ・詰問調の問いかけ (1) ・理不尽な態度 (1) ・恫喝的な態度 (1) ・責め立てるように怒る (1) ・厳しすぎる (1) ・顔を見て話を聞かない (1) ・学生の間違った考えに対する鼻で笑うような態度 (1) ・学生の失敗を笑う (1) ・ナースステーションの真ん中で怒る (1)
雰囲気に関する要因	<ul style="list-style-type: none"> ・声をかけづらい (3) ・話しかけづらい (2) ・質問しにくい雰囲気 (1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・声をかけづらい (8) ・話しかけにくい雰囲気 (6) ・面倒そうな雰囲気 (1)
指導に関する要因	<ul style="list-style-type: none"> ・何を考えたらいいのかわからない指導 (3) ・教員と指導者の指導方針が一致していない指導 (3) ・言っていることが毎回異なる指導 (1) ・学生の考えや意見を聞かず、上から目線で悪かったところのみ指摘する (1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者と教員の指導方針が一致していない指導 (3) ・何を考えたらいいのかわからない指導 (2) ・アドバイスがなく、ただ学生の考えを聞くだけのかかわり (1) ・質問に「そんなことも知らないの？」というだけのかかわり (1) ・「どうしてできないの？」というかわり (1) ・ほめてもらえない (1)
気遣いに関する要因	<ul style="list-style-type: none"> ・実施する援助を伝えてあっても、すでに終わっている (2) ・行動計画に非協力的 (1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・見学しなかったものが、知らないうちに終わっている (1)

表3 学生控え室が学びに及ぼす影響

カテゴリー	看護大学 (N = 29) コード	看護専門学校 (N = 38) コード
精神面に関する 要因	<ul style="list-style-type: none"> ・精神的に落ち着く (4) ・一息つける (4) ・緊張が和らぐ (4) ・リラックスできる (2) ・気分転換ができる (2) ・リフレッシュができる (1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・息抜きができる (5) ・心が安まる (3) ・気分転換ができる (2) ・リラックスができる (2) ・緊張が和らぐ (2) ・精神的に落ち着く (1)
学習面に関する 要因	<ul style="list-style-type: none"> ・自己学習ができる (5) 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己学習ができる (10)
学生とのかかわり に関する要因	<ul style="list-style-type: none"> ・学生同士で情報共有ができる (3) ・学生同士で相談ができる (2) ・学生同士で学びの共有ができる (2) ・学生同士で意見交換ができる (2) ・学生同士で教えあえる (2) ・学生同士で励まし合える (1) ・学生同士で会話ができる (1) ・同期と思いを共有することができる (1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生同士で相談ができる (5) ・学生同士で情報共有ができる (4) ・学生同士でコミュニケーションがとれる (4) ・学生同士で学びを深めることができる (4) ・学生同士で学びの共有ができる (3) ・学生同士で意見交換ができる (2) ・学生同士で知識の共有ができる (1) ・同期と話すことやる気がでてる (1)
教員とのかかわり に関する要因	<ul style="list-style-type: none"> ・教員から落ち着いて指導を受けられる (1) ・教員と振り返りがしやすくなる (1) ・先生に質問しやすい (1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員とじっくり話せる (3) ・教員から指導を受けやすい (1)

表4 看護援助で使用する病棟物品が学びに及ぼす影響

カテゴリー	看護大学 (N = 29) コード	看護専門学校 (N = 38) コード
物品が学校と異なる場合の要因	<p><メリット></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ある物品で適切なケアを工夫するため応用力がつく(1) ・学校と同じ物品がないときは、工夫が必要なため学びに繋がる(1) ・病棟で使用している物を使うと、ケアの工夫ができる(1) ・病棟の物を使い、授業とは異なった物品で実施することは、新しい発見になり、応用の仕方を学べる(1) ・さまざまな物品を知ることで、ケアの選択肢が広がる(1) ・病棟の物品を使うと、物品の使い方が学べる(1) ・物品が違うときは、どうするかを考えるので学びになる(1) ・物品が違って準備ができていと学びが深まる(1) ・学校で学んだ方法以外の方法で学びきっかけになる(1) <p><デメリット></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学んだことをスムーズにできないことがある(2) ・教科書通りのケアができるか不安になる(1) ・授業で扱ったことのない物品を扱うときは戸惑う(1) 	<p><メリット></p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習場所の物品で援助を行う場合、それも学びになる(1) ・物品についての新たな発見があり、勉強になる(1) ・病棟で使用されているものを使うことで援助の幅が広がる(1) ・病棟で実施するさいの工夫を学ぶことができる(1) ・ある物品を使って臨機応変に対応する方法が学べる(1) ・病棟の物品を使用することで、病棟スタッフと同じように工夫してできる(1) ・援助の幅を広げることができる(1) <p><デメリット></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学内演習で用いた物品と違うと焦る(2) ・学内での技術練習が、無意味になってしまう(1) ・実習前に学校で練習していることが多く、いざ病棟で実習するさいに練習で使った物品がないと戸惑ってしまう(1) ・病棟の物品で行う場合は、経験できるケアが少なくなる(1)
物品が学校と同じ場合の要因	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアがスムーズに行える(1) ・スムーズに援助が行えることで不安にならない(1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・スムーズに援助が実施できる(2) ・適切な援助が行える(1) ・物品に慣れていると、援助に集中することができる(1) ・学校と同じ物品があると、教科書にそったケアができる(1) ・学んだときと同じ物品を使うことで、学習効果があがる(1) ・効率よく、患者に負担をかけないでできる(1) ・演習では、テキストなどを基本にして練習するため、演習で使用した物品があると援助の基本が学べる(1) ・慣れている物品の場合は、時間のロスがなく、効率よく患者に負担をかけないでできる(1)
物品が学生専用の場合の要因	<ul style="list-style-type: none"> ・病棟スタッフのことを気にせず可以使用できる(1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師に気を遣わずに自分の計画通りに行える(1) ・病棟に気を遣わず、自分の予定でケアができる(1) ・学校や学生で準備しきれない物品を使用する場合は、病棟の物品を使用させてほしい(1)
物品が病棟と共用の場合の要因	<ul style="list-style-type: none"> ・学生が使用してよい物品がわからないと戸惑う(1) ・病棟の物を使う(借りる)場合は、遠慮してしまう(1) ・病棟スタッフに物品が足りないと言にくい(1) ・病棟の人に迷惑をかけるのではないかと不安になる(1) ・借りるまでに時間がかかる(1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・病棟から借りなければならぬときは気を遣う(1) ・物品に慣れていないため、物品準備に時間をとられる(1)
物品が不足している場合の要因	<ul style="list-style-type: none"> ・十分に学びが深められない(1) ・計画通りの援助ができない(1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が考えた援助を行うことができない(1) ・スムーズに実習を行うことが難しくなる(1) ・1日のスケジュール通りに実習が進まない(1) ・必要な物品がないと計画通りにいかない(1) ・他の学生と援助が重なった時、計画変更が必要になる(1) ・学生間で物品を使い回すことになり、ケアが減ってしまう(1) ・援助をすることが難しくなる場合がある(1) ・援助ができない(1)

